

コモン

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB101	知識と情報の世界	1	2.0	1・2	春AB	金1,2	7A102	中山 伸一, 横山 幹子	知識についての論考とそれを獲得するための方法について学ぶ。前半は、知識とは何かについて検討する。まず、「正当化された真なる信念」という知識の定義やそれに対する批判(ゲティア問題等)を紹介した上で、知識の共有について意味論との関わりを踏まえ、相対主義とその批判という視点から講義する。後半は、知識構造の分析により得られる様々な知識表現の方法について、その特性を含めて考究する。続いて、知識と情報、データの関係についてアフォーダンスの視点で検討する。最後に、様々な事象から情報やデータを取得する方法と知識を形成するための方法について学ぶ。	偶数年度は英語で授業, 奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目;教職科目 01MB102, OATW131と同一。 講義科目
01MB102	システム思考	1	2.0	1・2	春AB	金1,2	7A102	中山 伸一, 横山 幹子	知識についての論考とそれを獲得するための方法について学ぶ。前半は、知識とは何かについて検討する。まず、「正当化された真なる信念」という知識の定義やそれに対する批判(ゲティア問題等)を紹介した上で、知識の共有について意味論との関わりを踏まえ、相対主義とその批判という視点から講義する。後半は、知識構造の分析により得られる様々な知識表現の方法について、その特性を含めて考究する。続いて、知識と情報、データの関係についてアフォーダンスの視点で検討する。最後に、様々な事象から情報やデータを取得する方法と知識を形成するための方法について学ぶ。	偶数年度は英語で授業, 奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目;教職科目 01MB101, OATW131と同一。 講義科目
01MB103	インターネットと法	1	2.0	1・2	春AB	月1,2	7A202	阪口 哲男, 高良 幸哉, 村井 麻衣子	情報に関連する法制度や裁判例を概観し、情報化・ネットワーク化が進む現代社会における法的問題とそれに関わる技術について検討を行う。具体的には、著作権法などの知的財産法や、プライバシー・個人情報保護その他の情報に関する法を扱う。また、社会規範を守るという観点から見ると、情報社会において情報に関する法的権利へ配慮することは、情報倫理としても求められるようになっている。さらに情報の安全や知的財産保護に関する技術の基礎についても扱う。この講義では、情報に関する法制度と関連する技術の基礎的な事項を確認するとともに、法制度のあり方や実際の事例について自ら検討を行い、幅広い視野での理解を深める。	偶数年度は日本語で授業, 奇数年度は英語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 01MB104, OATW138と同一。 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目
01MB104	知的財産の管理と利用	1	2.0	1・2	春AB	月1,2	7A202	阪口 哲男, 高良 幸哉, 村井 麻衣子	情報に関連する法制度や裁判例を概観し、情報化・ネットワーク化が進む現代社会における法的問題とそれに関わる技術について検討を行う。具体的には、著作権法などの知的財産法や、プライバシー・個人情報保護その他の情報に関する法を扱う。また、社会規範を守るという観点から見ると、情報社会において情報に関する法的権利へ配慮することは、情報倫理としても求められるようになっている。さらに情報の安全や知的財産保護に関する技術の基礎についても扱う。この講義では、情報に関する法制度と関連する技術の基礎的な事項を確認するとともに、法制度のあり方や実際の事例について自ら検討を行い、幅広い視野での理解を深める。	偶数年度は日本語で授業, 奇数年度は英語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 01MB103, OATW138と同一。 講義科目
01MB105	図書館とメディアの歴史	1	2.0	1・2	春AB	金5,6	7A102	溝上 智恵子, 呑海 沙織, 綿拔 豊昭	本講義では、「歴史から学ぶ」という視座にたち、知識情報基盤としての図書館と記録メディアの歴史について学ぶ。まず、粘土板やパピルスといった古代のメディアから、羊皮紙とコデックス、活版印刷等、主として西洋の記録メディアの変遷を概観する。次に、中世の修道院図書館から図書館法、近代図書館の成立に至るまでの西洋の図書館の変遷を理解するとともに、日本の図書館の変遷についても学ぶ。	偶数年度は英語で授業, 奇数年度は日本語で授業;図書館情報学専門科目 OATW151と同一。 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB106	情報探索と検索	1	2.0	1・2	春AB	月5,6	7A203	上保 秀夫, 于 海濤, 松林 麻実子	情報プラクティスとは人間と情報との相互作用全般を含む新しい概念であり、図書館情報学における情報行動研究からコンピュータ科学におけるヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)まで幅広い領域で議論される。他者やユーザの社会的文脈など既存研究より広いコンテキストを考慮した相互作用の理解を重視する点に特徴がある。本講義では、古典的な情報探索行動・情報検索研究から情報プラクティスという視座に至るまでの歴史的経緯、ログ分析や実験室実験を基にした情報検索行動のユーザモデル、そして、ユーザの検索行動を学習・予測する手法とその評価について学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 01MB107, OATW132と同一。 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目
01MB107	情報行動論	1	2.0	1・2	春AB	月5,6	7A203	上保 秀夫, 于 海濤, 松林 麻実子	情報プラクティスとは人間と情報との相互作用全般を含む新しい概念であり、図書館情報学における情報行動研究からコンピュータ科学におけるヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)まで幅広い領域で議論される。他者やユーザの社会的文脈など既存研究より広いコンテキストを考慮した相互作用の理解を重視する点に特徴がある。本講義では、古典的な情報探索行動・情報検索研究から情報プラクティスという視座に至るまでの歴史的経緯、ログ分析や実験室実験を基にした情報検索行動のユーザモデル、そして、ユーザの検索行動を学習・予測する手法とその評価について学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 01MB106, OATW132と同一。 講義科目
01MB109	要求分析とプロジェクト管理	1	2.0	1・2	秋AB	月1,2	7A203	鈴木 伸崇, 中井 央	本講義では、構造化データとその処理手法などについて学ぶ。まず、構造化データを処理する上で必要となる正規表現やオートマトンなどの基礎概念について解説する。その上で、構造化データなどに対する構文解析手法について学習する。次に、XMLデータに対する代表的な検索言語であるXPathやXQueryについて解説する。さらに、半構造化データベースなど、マークアップ言語で記述されたデータの蓄積・管理手法について学ぶ。最後に、近年普及が著しいグラフデータにおける検索やスキーマについて講義する。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目;教職科目 01MB201, OATW117と同一。 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目
01MB110	テクニカルコミュニケーション	1	2.0	1・2	春AB	火1,2	7A207	吉田 右子, 三波 千穂美	本講義ではパブリックな場における情報サービスに関して、特定のコミュニティおよび社会制度の2つの位相からそのサービスをとらえ、参加者/利用者のエンパワーメントに焦点を当てて議論する。前半は生涯学習をテーマとして、情報・メディア・文化へのアクセスを保障する公共図書館サービスを、コミュニティ、社会的公正性、リベラル・マルチカルチャリズムの観点から検討する。後半は企画・決定、検討・手順書作成、広報・準備、実施・評価のプロセスを通じて、テクニカルコミュニケーション実践のための理論と方法を学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;図書館情報学専門科目 01MB309, OATW152と同一。 講義科目
01MB111	コミュニケーションと文化	1	2.0	1・2	春AB	火5,6	7A202	叶 少瑜, 歳森 敦	本授業では量的調査による対人コミュニケーションに関する分析について論じる。主として各種のメディア使用が対人コミュニケーションや選択行動へ与える影響について学ぶ。従来のマスメディアから現在のソーシャルメディアまでの各種のメディアの歴史の変遷を踏まえ、それぞれの使用がいかにユーザのアイデンティティ形成や言語使用、コミュニケーションメディア観、対人関係特にソーシャル・サポート・ネットワークの構築に影響するのかなどについて学際的な視点から理解を深め、国内外の既存研究を読み解くための基本的なスキルを習得する。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 OATW135と同一。 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目
01MB151	情報メディア演習B	2	2.0	1	春C	火・金 1,2	7A101	森田 ひろみ, 李昇姫, 大庭 一郎, 関 洋平, 村井 麻衣子	近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探索し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を目指したい学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。	毎年、日本語で開講;方法論的基盤科目 OATW213と同一。 演習科目
01MB152	情報メディア演習B-2	2	2.0	1						2020年度開講せず。 演習科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB153	情報メディア演習C	2	2.0	1	春C	月・木 5,6	7A101	森継 修一, 落合陽一, 辻 泰明, 中井 央, 綿抜 豊昭	まず、それぞれの担当教員が専門とする研究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や調査・実験の方法、研究成果の公表方法などの特徴について解説する。その後、修士論文執筆を最終目標として、文書作成、研究倫理、プレーストリーミング、協同作業、プレゼンテーションの5つのテーマについて学ぶ。(取り上げるテーマの順番は変更になる可能性がある。)さらに、研究の遂行と論文作成のために有用な各種のツールの使い方を演習を通して学ぶ。これらを通して、研究者となるための基礎的知識と技能を身に着ける。	毎年、日本語で開講:方法論的基盤科目 OATW211と同一。 演習科目
01MB154	情報メディア演習C-2	2	2.0	1						2020年度開講せず。 演習科目
01MB155	情報メディア演習C-3	2	2.0	1						2020年度開講せず。 演習科目
01MB156	グローバル研究演習Ia	2	1.0	1・2	春ABC	応談		逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期課程)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Iは1年次生を対象として開講する。	履修対象者は専攻長が指示する。01MB157との重複履修不可。 OATW271と同一。
01MB157	グローバル研究演習Ib	2	1.0	1・2	秋ABC	応談		逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期課程)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Iは1年次生を対象として開講する。	履修対象者は専攻長が指示する。01MB156との重複履修不可。 OATW272と同一。
01MB158	グローバル研究演習IIa	2	1.0	1・2	春ABC	応談		逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期課程)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIは2年次生を対象として開講する。	履修対象者は専攻長が指示する。履修対象者は01MB156もしくは01MB157の履修者に限る。01MB159との重複履修不可。 OATW273と同一。
01MB159	グローバル研究演習IIb	2	1.0	1・2	秋ABC	応談		逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期課程)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIは2年次生を対象として開講する。	履修対象者は専攻長が指示する。履修対象者は01MB156もしくは01MB157の履修者に限る。01MB158との重複履修不可。 OATW274と同一。

情報学

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB201	問題記述と形式化	1	2.0	1・2	秋AB	月1,2	7A203	鈴木 伸崇, 中井 央	本講義では、構造化データとその処理手法などについて学ぶ。まず、構造化データを処理する上で必要となる正規表現やオートマトンなどの基礎概念について解説する。その上で、構造化データなどに対する構文解析手法について学習する。次に、XMLデータに対する代表的な検索言語であるXPathやXQueryについて解説する。さらに、半構造化データベースなど、マークアップ言語で記述されたデータの蓄積・管理手法について学ぶ。最後に、近年普及が著しいグラフデータにおける検索やスキーマについて講義する。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目;教職科目 01MB109, OATW117と同一。 講義科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB202	自然言語処理	1	2.0	1・2	秋AB	金5,6	7A101	佐藤 哲司, 関 洋平, 森嶋 厚行	大量の情報へのアクセスは、ビッグデータ時代の鍵となる技術であり、その重要性は益々増大するばかりである。本講義では、情報アクセスの中心的な技術である情報検索、情報管理・統合技術、自然言語処理について、最先端の技術動向を交えながら説明する。これらの領域における最先端の話題として、WWWを舞台としたコネクティブインターネットや共創知、クラウドソーシング、ソーシャルメディアにおける情報統合についても解説し、情報アクセス技術のこれまでとこれからの研究や社会応用の展望について理解を深める。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目;教職科目;研究群共通専門基礎科目 01MB301, OATW118と同一。 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目
01MB203	データ工学特論	1	2.0	1・2	秋AB	金1,2	7A203	辻 慶太, 松村 敦	情報推薦システムの諸側面について学習する。まずこれまで情報推薦に用いられてきた協調フィルタリング、内容ベースフィルタリング、アソシエーションルール、様々な情報を機械学習で統合的に利用した推薦、といった代表的手法について学ぶ。情報推薦は、利用者が興味を持つアイテムの推薦を目的とする。興味を持つ要因としてはいくつかあるが、推薦では利用者の問題関心と合致していることに加え、目新しさや思いがけなさ、即ちセレンディビティも重要となる。適切・有効な推薦が行えたかを判定する評価基準についても学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 OATW133と同一。 講義科目
01MB204	データサイエンス活用	1	2.0	1・2	秋AB	金5,6	7A207		図書館情報学の研究においても、統計データの処理が年々重要になっている。本講義では、多変量解析を中心とするデータサイエンスの重要な手法の解説から始まり、データから知識を発見するためのデータ分類・データ体系化法、体系化した情報を効果的に提示する方法を紹介する。	講義科目
01MB205	セマンティックウェブ	1	2.0	1・2	春AB	木5,6	7A207	加藤 誠, 永森 光晴, 高久 雅生	本講義では、様々な情報資源を効果的かつ効率的に利用するための組織化について学ぶ。主にWWWやデジタルライブラリー等のネットワークを介して提供・共有される情報資源を対象とし、情報資源の分析とそのメタデータ記述、分類や識別の手法について学ぶ。また、Linked Open Data等の実践的なメタデータ記述も対象とし、記述に対するRDF Schema, OWL, SKOS等を利用したスキーマ定義とオントロジーについても理解を深める。あわせて、電子情報資源を対象としたレコード識別の方法として、適切な識別子を用いた同定、データクリーニング、自動同定の手法について解説する。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;図書館情報学専門科目;教職科目 01MB307, OATW157と同一。 講義科目
01MB206	インフォメトリクス	1	2.0	1・2	春AB	木3,4	7A102	森継 修一, 芳鐘 冬樹	研究機関等が提供するオープンデータの拡充とともに、それらの分析手法に習熟したデータサイエンティストの社会的需要が高まっている。講義前半では、データサイエンスと数学および統計学の関連について概観したのち、統計学的手法に基づくデータ分析を実践し、最新の「計算代数統計」と呼ばれる手法の導入までを目指す。後半では、インフォメトリクスデータに基づく分析の理論と手法について学習する。特に、それらのデータの特性である低頻度事象の存在や、それに起因する統計的尺度の標本量依存性に配慮した分析に関する理解を深める。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目 01MB219, OATW111と同一。 講義科目
01MB207	コンテンツ制作論	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6	7A208	金 尚泰, 落合 陽一	芸術・デザイン・メディアアートの知見から、情報デザインの仕組みを理解するとともに、ハードウェア制作やソフトウェア制作を通じた実世界志向インタラクションおよびインフォグラフィクスの手法を学ぶ。実世界志向のインタラクションは近年、スマートフォンやウェアラブル端末などの情報機器の普及によって産業界から注目を集めており、またインフォグラフィクスを応用した画面表示やコミュニケーションのための表現がコンテンツ制作者に求められている。本講義ではグラフィックデザイン手法を基盤とし、ビジュアル表現に関して議論ができるスキルを養い、その応用例として展示会を実施し、それにまつわるビジュアル作りやキャプション作りなど実社会で使用するスキルを身につける。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目 01MB212, OATW113と同一。 講義科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB208	音声・音響メディア処理	1	2.0	1・2	春AB	月3,4	7A204	真栄城 哲也, 寺澤 洋子	生命が持つ情報の側面について学ぶ。具体的には、遺伝情報、生体内の情報処理、脳活動、生体信号等を題材に、様々な現象の計測やモデル化、データの保存、分析、表現等について学ぶ。特に、バイオインフォマティクスで使われる生命情報を扱う手法や、生命をモデル化するためのシステムバイオロジーの考え方、生体信号処理や知覚システムモデリングの手法、生体情報を用いた芸術表現など関連分野の知識について理解することを目的とする。さらに、近年の生物学の研究において、必須となっている情報学の考え方や手法を、関連する生命現象とともに学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目 OATW115と同一。西暦偶数年度は英語で授業 講義科目
01MB209	画像・映像メディア処理	1	2.0	1・2	秋AB	火1,2	7A101	時井 真紀, 藤澤 誠	医療分野や気象学、生物学などで得られる計測データ、購買情報等の人々の行動データ、物理現象の解析に用いられるコンピュータシミュレーションから得られる数値データなど、膨大で複雑なデータを人間が理解し、解釈するためにコンピュータグラフィックスを用いた情報可視化技術が必須となってきている。本講義では情報可視化の基礎を学ぶとともに、科学的なデータを可視化するサイエンティフィックビジュアライゼーションと社会的なデータを可視化するインフォメーションビジュアライゼーション、そしてこれらのデータを扱うための3次元ユーザインタフェース (AR) についても学ぶ。	メディアサイエンス専門科目 西暦奇数年度は英語で授業 教職科目 01MB304, OATW114と同一。 講義科目
01MB210	認知科学特論	1	2.0	1・2	春AB	火5,6	7A206	平賀 譲, 李 昇姫, 森田 ひろみ	メディアサイエンスを理解し応用するために不可欠な、人間の感性・認知の働きについて学ぶ。以下の項目に関する講義・ディスカッションを行う: (1) 人間の認知過程、とりわけ理性的な思考や客観性のある解析過程について、計算論的モデル化によるアプローチの基礎を学び、具体的な事例・領域への適用について論じる。(2) インタフェースの成立基盤となる物体認知や運動学習などに関する心理学的知見について学び、その方法論を実践的に学習する。(3) 創造性における感性情報の働きや感性情報評価の概念について解説する。感性、認知、行動と生体情報、パーソナリティなどの融合科学として、デザイン発想、製品開発に応用された事例を学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目 OATW116と同一。西暦偶数年度は英語で授業 講義科目
01MB211	ヒューマンコンピュータ・インタラクション	1	2.0	1・2	秋AB	火3,4	7A101	井上 智雄, 三河 正彦	本講義では、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)について解説する。より円滑なインタラクションを実現するために必要となるHCIの基本的な考え方をはじめ、システムとして構築するための設計、実装、評価手法の概要について学ぶ。さらにユーザインタフェース(UI)、ロボティクス、コンピュータビジョン、認識技術等のシステムをインテリジェント化するための要素技術に加え、人間のコミュニケーションや情報共有を支援、拡張、活用するソーシャルコンピューティングに関する研究開発の最新の動向についても解説する。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 01MB316, OATW134と同一。 講義科目
01MB212	情報デザイン	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6	7A208	金 尚泰, 落合 陽一	芸術・デザイン・メディアアートの知見から、情報デザインの仕組みを理解するとともに、ハードウェア制作やソフトウェア制作を通じた実世界志向インタラクションおよびインフォグラフィックスの手法を学ぶ。実世界志向のインタラクションは近年、スマートフォンやウェアラブル端末などの情報機器の普及によって産業界から注目を集めており、またインフォグラフィックスを応用した画面表示やコミュニケーションのための表現がコンテンツ制作者に求められている。本講義ではグラフィックデザイン手法を基盤とし、ビジュアル表現に関して議論ができるスキルを養い、その応用例として展覧会を実施し、それにまつわるビジュアル作りやキャプション作りなど実社会で使用されるスキルを身につける。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目 01MB207, OATW113と同一。 講義科目
01MB213	ユビキタスコンピューティング	1	2.0	1・2	春AB	火1,2			インターネットの急速な普及により通信とコンピュータの融合が進み、さらにワイヤレス通信やRFIDタグ(非接触ICカード)の普及が相まって、我々はネットワーク化された多様な情報機器に囲まれてビジネスや日常生活を営んでいる。本講義ではこのようなユビキタス社会を実現する基本技術をモバイル、ネットワーク、クラウド等をキーワードとして論じる。	講義科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB214	情報技術とビジネス	1	2.0	1・2	春C	集中	7A202		マスメディアと言われるテレビや新聞から、インターネットに至るまでの広範な情報メディアビジネスを概観する。 加えて、情報メディアビジネスの基本的な枠組みや構成要素を理解するとともに、情報技術が社会に与える影響等を踏まえて近未来像も検討する。	講義科目
01MB215	先端情報技術	1	2.0	1・2					画像や音声などのメディア処理や生体信号処理技術について、福祉分野への応用を中心に、近年の研究動向や研究事例などをまじえて解説する。	2020年度開講せず。 講義科目
01MB216	メディア技術特論	1	2.0	1・2	春C	集中			凸版印刷が永年培ってきた印刷技術は、ICTにより様々な変化を続けるメディアの中にあって現在も特徴ある進化を続けている。 本講では、歴史的基盤としての「印刷文化」を再確認し、近年のデジタル化により実現しつつある印刷表現領域の拡大について、文化という切り口から「情報化と公開技術」をテーマとして講義と事例により考察する。	トッパン小石川ビル (文京区)にて実施 講義科目
01MB218	情報学特論	1	2.0	1・2	春AB	月3,4	7A207		特定の領域の情報を取り上げ、情報が有する特性、蓄積の方法、分析・利用の可能性、および質の評価について、様々な情報サービス事例を分析することにより学び、情報支援サービスの在り方を考える。	講義科目
01MB219	アルゴリズム特論	1	2.0	1・2	春AB	木3,4	7A102	森継 修一, 芳鐘 冬樹	研究機関等が提供するオープンデータの拡充とともに、それらの分析手法に習熟したデータサイエンティストの社会的需要が高まっている。 講義前半では、データサイエンスと数学および統計学の関連について概観したのち、統計学的手法に基づくデータ分析を実践し、最新の「計算代数統計」と呼ばれる手法の導入までを目指す。後半では、インフォメトリクスデータに基づく分析の理論と手法について学習する。特に、それらのデータの特性である低頻度事象の存在や、それに起因する統計的尺度の標本量依存性に配慮した分析に関する理解を深める。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目 01MB206, OATW111と同一。 講義科目
01MB220	データサイエンス概論	1	2.0	1・2	春AB	木1,2	7A202	若林 啓, 長谷川 秀彦	本講義では機械学習手法の原理と実践の利用についての体系的な知識を学ぶ。特に、データサイエンスの基礎技法である画像認識や文書分類、クラスタリングを行うための機械学習手法として、ニューラルネットワークやベイズモデルに基づく教師あり学習と教師なし学習を扱う。線形代数や確率論に基づいた機械学習の基本的な原理について講義するとともに、画像データやテキストデータのパターン認識に関する演習を適宜交えることで理解を深める。また、データマイニングにおける応用や、大規模データに対する並列処理など、機械学習に関連した技法についても学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目;教職科目 OATW112と同一。 講義科目 Lectures are conducted in Japanese only.
01MB221	映像メディア特論	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6	7A204	辻 泰明, 白石 信子, 宮本 聖二	博物館はメディアである。博物館が提供するものは情報であり、テレビに似ている(梅棹1987)と唱えられて以後、インターネットの普及に伴い、メディアとしての博物館は急速に発展しつつある。リアルな博物館とヴァーチャルな博物館の双方において、情報メディアに関する知識と理解が強く求められている。本講義は、インターネット展開における映像リテラシーの重要性を鑑みつつ、博物館と情報メディアに関し、その現状と展望について、さまざまな観点から考察する。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;図書館情報学専門科目 01MB306, OATW156と同一。 講義科目
01MB251	情報メディア演習A (情報学)	2	2.0	1	秋C	月・木 3,4	7A103	後藤 嘉宏, 鈴木 佳苗, 時井 真紀, 長谷川 秀彦, 叶 少瑜	本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。	毎年、日本語で開講;方法論的基礎科目 01MB351, OATW215と同一。 演習科目
01MB253	情報メディア特別演習(情報学)a	2	2.0	2	春ABC	応談		佐藤 哲司, 情報学学位プログラム(博士前期課程)指導教員	修士論文執筆のために、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学の各領域に関して以下の研究トピックについて論文指導を受ける。 (1)メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用 (2)コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用 (3)社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用 情報学特別演習aは春学期に開講する。	01MB353, 01MB455, 01MB557, OATW251と同一。 演習科目 情報メディア特別演習(情報学)aとbを併せて履修することで情報メディア特別演習(情報学)に相当

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB254	情報メディア特別演習 (情報学)b	2	2.0	2	秋ABC	応談		佐藤 哲司, 情報学 学位プログラム (博士前期課程) 指 導教員	修士論文執筆のために、メディアサイエンス、 情報インタラクション、図書館情報学の各領域 に関して以下の研究トピックについて論文指導 を受ける。 (1)メディアの特性を活かしたデータ活用に関す る理論と応用 (2)コミュニケーションに焦点を当てた情報利用 に関する理論と応用 (3)社会基盤としての知識資源のマネジメントに 関する理論と応用 情報学特別演習bは秋学期に開講する。	01MB354, 01MB456, 01MB558, OATW252と同 一。 演習科目 情報メディア特別演習 (情報学)aとbを併せて 履修することで情報メ ディア特別演習(情報 学)に相当
01MB255	情報メディア特別演習 (情報学)a	2	2.0	2	秋ABC	応談		情報学学位プログ ラム(博士前期課 程) 指導教員		演習科目 指導教員に指示された 学生のみが支援室窓口 で履修申請すること
01MB256	情報メディア特別演習 (情報学)b	2	2.0	2	春ABC	応談		情報学学位プログ ラム(博士前期課 程) 指導教員		演習科目 指導教員に指示された 学生のみが支援室窓口 で履修申請すること